## 労務者渡世 バックナンバー在庫

第一四号 特集おかま
第二二号 特集 らくがき
第二三号 特集 ろてん
第二四号 第二回渡世賞発表
第二五号 特集 古老は語る道具と仕事

御握り屋にあります

「鉄鎖在研け！」六〇九号他（パンフ・二百円）
釜ヶ崎仲間の会獄中班機関紙

「釜ヶ崎 旅の宿りの長いまち」
寺島珠雄著 五百八十円

この二冊も御握り屋にあります

## 労務者渡世 販売店

かとう ションベンガード東
㊥ 銀座通 安い屋ならび
千石書店 パチンコニュー大阪東
いこい食堂 けいさつうら
ふるさとの家 消防 海道出張所南
御握り屋 三の丸公園西
大阪労演 中之島 朝日ビル七階

プレイガイドジャーナル 御堂筋 大丸西向い
長瀬書店 山谷・清川 ゴ屋並び

## 満開座 第三回釜ヶ崎興行

五月一二日(金)午後六時半
西成市民館

・純情詩集
あなたできたのここんとこ
みれば 二三十文字

## 渡世にハガキを！

次号の特集・メシーム夫出し・飯場の弁当・に、ハガキで参加して下さい。
最低の弁当、その献立と人夫出し、飯場の名前・マアマアの弁当、その献立と名前。ハガキに書いてポストへ。


労務者渡世 第二六号
一九七八年五月六日発行 定価百円
大阪市西成区萩之茶屋3-6-1方
「御握り屋」気付
労務者渡世編集委員会


# 釜ヶ崎 旅の宿りの長いまち

寺島 珠雄

## 本の紹介

私が本を出した。もちろん、作ったのは印刷・製本屋さんで、どこに注文し販売ルートに乗せているのはプレイガイドジャーナル社。

新しい本は釜ヶ崎 旅の宿りのながいまち。私が渡世を含めて、朝日ジャーナル社・毎日新聞・雑誌に書いたのをまとめたもので、詩を中央にして前半の文章は新しいものから古いものへ、後半は逆に古いものを頭にしまいの方が新しいという配列。六年～七年。

御握り屋の栄達に飯場専門で全国を渡り歩いて十年、ここに三年になって現金で仕事するようになったという人がいる。左に人夫出しの間ぐらいを話題として帰る。たまたま誌が朝鮮人飯場・人夫出しのことになり、〝あすこは北だろうか南だろうか、同じ仕事に行くなら北の方に行った方がいいんでしょうねえ〟とおっしゃる。私がいいのか不明だが、ふと思いついて、私の本の〝釜ヶ崎・朝鮮人〟断片〟の所を開いて渡す。橋五百円ウファウファはくそえみながら読み終わり、今晩読みたいから、と買って帰る。左にがそう面白かったのか不明のまま。

しかし、彼氏・二～三日遊んで明日は仕事へ行かなければ、と言っていたが、うまく朝おきれただろうか、本を遅くまで読んでて仕事にのり遅れてなければいいが。

肝心の本の内容紹介だが、もう書くスペースがない。〝渡世〟を読んでも判るだろう、面白いに決まってる、とだけまっておこう。（さ）

プレイガイドジャーナル社 九八〇円

## 目次


労務者渡世＝「労働者渡世」由来／釜ヶ崎の現実／未完の断章／三・二六 釜ヶ崎メモ／釜ヶ崎 冬之春／釜ヶ崎・朝鮮人＝断片／EXPO以後の釜ヶ崎／釜ヶ崎近況＝70年秋
（詩）手帖／史的小断面歌／豚足歌／町内異図ばなし／いまも……／歌のある情景／伝説／記録／人名録ふうに／情況資料／公園／歌
一章
釜ヶ崎入門記／排斥されるべきその／釜ヶ崎年の暮れ／汚名の選択／釜ヶ崎、女たちについての メモ／流砂の対話 市民・釜ヶ崎・詩地球…／「負ける」ということ／「兵卒」がさまようまち／めし屋は孤独の呟きだまり／個・共同体空想・その他／ネギに関する断章／釜ヶ崎手帖／らくがき＝俺たちの情報
風の街にて 寺島珠雄のこと 竹中労
あとがき／初出一覧